

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。

自由研究・
調べ学習に



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります！

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイ捨てストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



イラストや画像いり
楽しくわかりやすい!

ポイ捨てストップってなあに?



映像資料も
あります!!

ホームページは
こちらから

まち美化キッズ

検索

<https://www.kankyobika.or.jp/kids>

【編集・発行】

公益社団法人 食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階

TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 URL <https://www.kankyobika.or.jp/>



食環協 ニュース 137

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第21回環境美化教育優良校等表彰伝達式」が開催されました

第21回を数える「環境美化教育優良校等表彰事業」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、例年の最優秀校が一堂に会した会場での式典開催を中止し、各受賞校と相談の上、表彰伝達式を各校において実施いたしました。規模は縮小されましたが、今回も、児童や生徒および教職員、地域の皆さんを始め、行政や飲料団体関係者にお集まりいただきました。また、受賞校や行政のお力添えを賜り、テレビ局や新聞社など報道機関も多数駆けつけるなか、例年以上に活気に満ちた表彰伝達式が行われましたことに心より感謝を申し上げます。

この表彰は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、都道府県から推薦を受けた小・中学校31校の中から、審査委員会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校21校の表彰校については、P9以降に掲載されています。



にしいしき
鹿児島県鹿児島市立西伊敷小学校



おこっぺ
青森県大間町立奥戸小学校



ごこしま
愛媛県松山市立興居島小学校



ほくせい
石川県白山市立北星中学校

■ 最優秀校4校の表彰伝達式レポート

最初に開催された表彰伝達式は2月2日（火）13時半、文部科学大臣賞を受賞した「鹿児島県鹿児島市立西伊敷小学校」です。当協会初の試みとなるオンラインによる表彰状授与でしたが、リハーサルを重ね準備を進めた結果、滞りなく実施することができました。途中、児童代表の末吉昊斗さん（6年）が、「地球環境のためにこれからも西伊敷小の伝統として活動を続けたい」と元気よくあいさつ。取材に訪れたテレビ局や新聞社に笑顔で対応し、同校の石塚宏志校長が「今後はSDGsも視野に入れながらエコ活動の輪を広げたい」と抱負を語りました。



続いて2月8日（月）16時から行われたのは、環境大臣賞を受賞した「石川県白山市立北星中学校」です。冒頭、石井利幸校長が「継続は力なりといいますが、地域環境をよりよくする取り組みを我々が大切にしてきた結果、今日を迎えることができました」とあいさつ。その後、生徒会長前田叶琉さん（2年）が「3年間やってきたことが表彰されてとても達成感があります。これからは後輩にバトンを渡す形で、伝統を引き継いでいきたいです」と喜びを語った後、表彰状が授与され、報道機関各社の取材に堂々と応じていました。

2月10日（水）10時に開催されたのは、農林水産大臣賞を受賞した「青森県大間町立奥戸小学校」。全児童30名が体育館に集合、長年にわたり同校の活動を支えてきた地域環境保護団体「川蟬会」も出席する中で、児童代表、宮野ひまりさん（6年）が「先輩たちが続けてきた自然を大切にすることを、自分たちも受け継いでいきます」と力強く宣言しました。津幡亨校長は、児童が作った自然を題材にした俳句を紹介しながら、ふるさと奥戸を地域の人と守る大切さを語りかけました。表彰状授与後は、全員で校歌斉唱して閉会。集まったテレビ局や新聞社からはさまざまな質問が飛び交いましたが、児童は澁然と対応していました。



協会会長賞を受賞した「愛媛県松山市立興居島小学校」は2月13日（土）8時45分から行われました。会場の体育館には、全児童45名とその保護者、地域住民らが続々と集まり、大勢が見守る中で、八木誠一校長が「この賞は、卒業生や地域、保護者の方々のご尽力の賜物です」と感謝の気持ちを込めてあいさつ。児童代表の大野ひまりさん（6年）は、「興居島小の伝統として、これからも美しい砂浜が失われないように活動を続けていきたいです」と決意を語り、会場があたたかい拍手で包まれる中で表彰状授与が行われました。報道機関も多数取材に訪れるなど、最優秀校の表彰伝達式の最後を飾るにふさわしい盛大な式典となりました。

■ 表彰事業関係者のあいさつ（要旨）

地域が屋根のない学校となることで 学びは未来の光になり希望にもなる

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子様



審査会では、次の4つの審査基準に基づき評価いたしました。まず1つ目の基準は、独創性、そして継続的・持続的に進めていることです。2つ目は、活動の内容が客観的根拠をもち、実践的な学びと結びついていることです。3番目は、地域社会と連携していることです。このことはとても大事で、小・中学生は、自分と社会、地域とのつながりの中で自分を見出し、かつ世界へ目を向ける段階として自己を確立していくときに、地域と連携することによって、自分自身の骨格がつくられます。そして4番目は、活動の広がりです。今回の最優秀校の活動を通して、学校という閉じられた空間だけで児童生徒は学んでいるのではなく、地域の中で、大人も含めた方々と相互に「学び合い」が行われていること、さらに児童生徒は地域とのつながりを実感しながら自己肯定感を高め、自己を確立していることを改めて確信しました。同時に、地域が「屋根のない学校」として機能していること、「学びは未来への光」であり、「希望である」ことを再認識することができました。

体験活動などを通じて環境への理解と関心を深め 具体的な行動に結びつける態度を育む

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長 滝波 泰様

環境問題は、持続可能な社会の構築に当たり、重要な課題です。文部科学省では、平成29年、30年に小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領を改訂しましたが、引き続き、環境教育に関する内容を重視しています。

文部科学省としては、今後の社会を生きる子供たちが環境に関する知識を身に付け、体験活動などを通じて、環境に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結び付けられるよう、学校教育をはじめ、家庭や地域などにおける環境教育の一層の推進を図っていきたいと考えています。受賞された皆さんには、引き続き、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養いながら、心豊かにたくましく成長されることを願っております。



環境問題への理解を深め 生命を尊び 自然を大切に活動は他者の見本になる

農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 課長補佐（容器包装リサイクル班担当） 菅井 剛様



今回、農林水産大臣賞を受賞された奥戸小学校の皆様におかれましては、津軽海峡に面した豊かな自然環境の下、地域団体「川蟬会」の協力を得た多彩な美化活動や、地域の大切な恵である奥戸川の源流を辿り、ポイ捨てごみ回収やイワナ稚魚放流や奥戸漁港周辺のクリーン活動など、幅広く活動に邁進されています。こうした地域と共同した活動は大いに評価されることであり、他者の見本になるところです。引き続き、環境問題への理解を深め、生命を尊び、自然を大切に、環境保全に寄与する考えを持って、さらに成長されることを願うとともに、皆さんの活躍を心から応援しております。

海に流出するプラスチックを無くす活動を継続して 世界的な大きな課題の解決を

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 室長 平尾 禎秀様

近年、世界的な大きな課題となっていて、今のまま海へのプラスチック流出が続くと、2050年には海の魚の重量よりも、海に漂うプラスチックの重量の方が多くなると予測されています。国としても、レジ袋の有料化など、皆さんの協力を得ながら、プラスチックと賢くつきあうための取り組みを進めているところです。プラスチックは利便性が高く、皆さんの生活に恩恵をもたらしている一方、海に流出することで、生態系や環境への影響が懸念されています。今回環境大臣賞を受賞された石川県白山市立北星中学校の海岸清掃活動は、この問題を解決する大事な取り組みの一つです。再開できる状況になりましたら、継続していただければ、うれしいです。それとともに、どうすれば、海に流出するプラスチックを無くすことができるかを、一緒に考えていければと思っています。



最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

地域で励む資源回収や清掃活動が地球規模で考える素地を養う

文部科学大臣賞 鹿児島県 鹿児島市立西伊敷小学校^{にし いしき}



鹿児島のシンボル「桜島」を見晴らせる同校では、緑豊かなロケーションを背景に、多様な美化活動が行われている。1974年の開校当初から地域を挙げて力を入れてきたリサイクル活動は、2007年に「学校版環境ISO認定校」に認定されてから加速。毎月第2週目を「環境を考える週間」に設定、児童会主導でアルミ缶などの資源回収に努めている。その根源にあるのが「アフガニスタンの子どもたちへランドセルを贈ろう!」プロジェクトだ。使用しなくなったランドセルを、長年にわたりアフガニスタンに贈っている同校では、6年生が総合的な学習の時間でそのしくみや意義を学んだ後、思い出の詰まったランドセルを送り出す。アルミ缶などの回収活動で得た収益金は、そのランドセルの送料に充てている。こうした取り組みを通じ、自分たちの行う美化活動が人の役に立つことを体感した児童は、通学路清掃にも励む。伝統的な取り組みのひとつとして、毎朝7時半前後に登校、進んで清掃を行う。地域での活動をベースに、児童の環境意識はSDGsに向かい、地球規模で考える素地が整っている。

鹿児島県鹿児島市立西伊敷小学校の皆さん

「学校と家庭、地域が一体となった活動が評価されましたので、皆さんといっしょに喜んでいきます。地球規模で考え、足もとから行動することを掲げて、今後も、“共生、ひと・もの・自然と共に生きること”、“人に優しく、環境にも優しい教育”を目指し、引き続き環境教育を推進していきたいと考えています」



鹿児島県環境林務部廃棄物・リサイクル対策課 主事 西元 有紀様

「開校当初より続く活動で、環境美化に対する意識も先輩から後輩へと伝統として引き継がれています。この度、子ども達の長年の取り組みが評価され、最優秀校に選ばれたことを喜ばしく思います。今後も、子ども達はもちろんのこと、すべての世代の方々が地域の環境美化に取り組んでいただける環境づくりを行ってまいります」



鹿児島地方連絡会議 サントリーフーズ株式会社 九州支社 企画部長 宮本 裕行氏

「皆さんの環境に関する取り組みは、地域を良くするだけでなく、皆さん自身の心も豊かにする活動だと考えています。そして、これまで続けてきた取り組みが認められたことへの喜びを分かち合ってください、ぜひ、次代に引き継いで末永い活動になりますことを願っております」



地域の力を糧に校歌で歌い継がれる豊かな自然を守り抜く31人

農林水産大臣賞 青森県 大間町立奥戸小学校^{おこっぺ}

本州最北端に位置する大間町。その南西部に広がる奥戸地区^{おこっぺ}に建つ同校では、なだらかな山や津軽海峡に面した自然豊かな環境を守るために、地域に密着した多様な活動に取り組んでいる。2005年から開始したのが「天狗山登山」。雪が解けた春先、冬期間雪に埋もれていたポイ捨てごみを回収しながら登山に励む、年1回の恒例行事だ。また、地域を流れる「奥戸川」では、源流を辿ってごみを拾う活動も実施。奥戸川は、住民の飲料水になる貴重な川で、地域にとって欠かせない。その源流を探索することで、水の大切さや環境保護の重要性を体感している。こうした児童の取り組みを支えるのが地域の自然保護団体「川蟬会」^{かわせみ}だ。天狗山登山では、ごみ回収活動とともに植物の生態の話をしたり、奥戸川では、途中の林道で植林や砂防ダムの役割について説明したりなど、学校にとって得難い存在となっている。児童は、川蟬会から学んだことをポスターや新聞にまとめて情報発信。奥戸の町との関わり方について率先して考えながら、豊かな自然を未来へとつないでいる。



青森県大間町立奥戸小学校の皆さん

「今回の荣誉ある賞は、地域の方々や川蟬会、大間町のご協力があったからです。そして忘れてはならないのは、先輩たちがずっと続けてきた努力です。その自然を大切にすることが受け継いで、奥戸の自然がいつまでも豊かであり続けるように、これからも頑張っていきます」



青森県下北教育事務所 教育課長 佐藤 智義様 (下部写真右)

「地元の方と連携しながら、親から子へ孫へと伝えていく息の長い活動は本当に素晴らしいと思います。川蟬会の方々が、自然が地域の宝であることを子どもたちにしっかり伝え、きれいな川を守り、ごみを捨てない教育を行う取り組みは、地域づくりにも深くかかわっていると思い、感心しました」

青森地方連絡会議 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社

執行役員 グループ管理本部副本部長 兼 グループ人事部長 阿部 嘉氏 (下部写真左)

「現在、海洋プラスチックごみやSDGsといったニュースが飛び交う中で、奥戸小学校のように、地域と連携しながら昔からやっていた取り組みが、今回こういう形でお披露目できたことは本当に良かったと思っています。奥戸小学校だから成し遂げられたことだと式典に参加して強く思いました」



日本ジオパークにも認定された多様な環境を守るための挑戦続く

環境大臣賞 石川県 白山市立北星中学校^{ほくせい}



多様な自然や文化が息づく地域として、市全体が「日本ジオパーク」に認定された白山市。その北部に位置する同校の近くには、徳光・相川海岸^{そうご}が広がっている。海水浴が楽しめる海浜公園として多くの観光客が訪れる人気スポットだが、広範囲にわたり漂着ごみが見られる。幼少期から親しんできた浜辺が汚染されていく光景を目の当たりにした生徒は、2004年に海岸ボランティア清掃を開始。年々参加者が増えてきたため、2019年からは全校で実施する行事に成長した。その清掃を行う相川海岸では毎年7月下旬、ヒラメの稚魚放流も実施している。資源改善のために県漁業組合が行っている取り組みだが、人手不足などの理由から同校に協力依頼したのがきっかけで、20年以上にわたり共同で開催している。地域に着目するようになった生徒は、ポイ捨てごみを回収しながら登校する「通学路クリーン活動」を始めた。同時に市が主催する「白山市クリーン作戦」にも参加。こうした多岐に及ぶ活動を通じ、地域環境をよくするために市へ提言書を提出するなど、生徒のあくなき挑戦は続く。

石川県白山市立北星中学校の皆さん

「先輩たちが残してくれた伝統を引き継いで、地域の皆さんと協力しながら海岸清掃やクリーン作戦などを行い、北星中や地域の環境を守っていきます。今後も、中学生として、何ができるかを考えながら取り組んでいきたいと思っています」

白山市教育委員会学校指導課 課長 日向 正志様 (下部写真右)

「日本ジオパークやSDGs未来都市に認定された白山市としても、この度の北星中学校の受賞がさまざまな取り組みのさらなる一歩を踏み出す大きなきっかけとなることと大変うれしく思っております。ぜひ今後も、創意工夫を凝らしながら持続可能な社会の作り手として、一歩でも二歩でも前へ進んでいただきたいです」



北陸地方連絡会議 大塚製薬株式会社

名古屋支店金沢出張所 所長 谷本 芳和氏 (下部写真左)

「北星中学校さんの取り組みは、単年度で終わりでなく、継続していること、環境意識をしっかりと持って活動していることが評価され、受賞につながったのだと思っています。この受賞を励みにして、いっそう地域環境に目を向け、後輩にもバトンをつながながら長きにわたり活動が続くことを願っております」



住民と行う漂着ごみ回収やハマボウフウ保護活動で島の魅力PR

協会会長賞 愛媛県 松山市立興居島小学校

愛媛県松山市の沖約2kmに浮かぶ「興居島」。対岸の松山や瀬戸内の島々が見晴らせる眺望が魅力のひとつだ。島で唯一の小学校となる同校では、使命感を持って多彩な清掃活動に取り組む。目の前に広がる「船越海岸」は、白砂が自慢の美しい浜辺だが、プラスチック製品のごみが目立つ。児童は、住民や地域団体「わけひめフラワーサロン」とともに海岸清掃を行いながら、美化意識を磨いている。同時に、同団体の指導を得て、希少な海浜植物「ハマボウフウ」の保護活動も実施。ハマボウフウはもともと海岸に多数自生していたが、台風などで砂浜が削られるなどして数が激減。かつての浜辺を取り戻そうと住民が活動したのを機に、児童も参加するようになった。また、同校に隣接する興居島中学校と共同で清掃活動も行っている。児童は、そうした取り組みを知ってもらおうと新聞を制作。松山と島を結ぶフェリーなどに掲示し、興居島の魅力をPRしている。目の前の海を舞台に、献身的な住民や中学生に支えられながら6年間学ぶ児童の心には、「ふるさと」への誇りが刻まれている。



愛媛県松山市立興居島小学校の皆さん

「このような素晴らしい賞を頂戴することができたのは、長年にわたって興居島小学校の先輩や地域の方々が環境美化活動を続けて下さったおかげです。これからも、ふるさと興居島の美しい自然を守る取り組みを続けていきたいです」

愛媛県中予地方局健康福祉環境部環境保全課

廃棄物指導係 係長 長賀部 令様(下部写真左)

「今回の受賞は、今まで活動を支えてくれた先生や地域の方々、そして実践してきた児童の皆さんの熱意の賜物であると深く敬意を表します。この受賞を励みに、興居島小の伝統として末永く受け継がれていきますことを心から願っております」

松山市環境部環境モデル都市推進課 課長 稲田 靖穂様(下部写真右)

「今回、興居島小学校は松山市から初めて最優秀校に選ばれました。これは皆さんが、地域の方々と協力して10年以上にわたり受け継いできた活動が実を結んだ素晴らしい結果です。今後も、興居島が生き物や人にとって過ごしやすいく町になるように引き続き活動に取り組んで欲しいと思います」

愛媛地方連絡会議 株式会社えひめ飲料 総合戦略部 主席研究員 首藤 正彦氏

「今回の最優秀賞は、児童の皆さんだけでなく、地域の方々といっしょになって取り組んでくれたことが評価されたのだと思っています。今後とも、この興居島の素晴らしい自然環境が未来に引き継がれていきますように願っています」



第21回 環境美化教育優良校等表彰事業 表彰校一覧

最優秀校 (4校)

- 文部科学大臣賞 鹿児島県 鹿児島市立西伊敷小学校
- 農林水産大臣賞 青森県 大間町立奥戸小学校
- 環境大臣賞 石川県 白山市立北星中学校
- 協会会長賞 愛媛県 松山市立興居島小学校



優秀校 (6校)

- | | | | |
|-----|------------|-----|-----------|
| 山形県 | 西川町立西川小学校 | 福井県 | 敦賀市立松陵中学校 |
| 愛知県 | 碧南市立東中学校 | 兵庫県 | 神戸市立岩岡中学校 |
| 福岡県 | 古賀市立古賀西小学校 | 宮崎県 | 延岡市立北川中学校 |

優良校 (21校)

- | | | | |
|-----|-------------|------|-------------|
| 岩手県 | 久慈市立大川目中学校 | 秋田県 | 八郎潟町立八郎潟小学校 |
| 群馬県 | 前橋市立広瀬小学校 | 埼玉県 | 久喜市立久喜小学校 |
| 東京都 | 葛飾区立原田小学校 | 新潟県 | 見附市立田井小学校 |
| 富山県 | 富山市立呉羽小学校 | 山梨県 | 山中湖村立山中小学校 |
| 岐阜県 | 御嵩町立向陽中学校 | 静岡県 | 掛川市立北中学校 |
| 大阪府 | 泉佐野市立第三中学校 | 和歌山県 | 和歌山市立西脇中学校 |
| 広島県 | 三原市立宮浦中学校 | 山口県 | 下松市立豊井小学校 |
| 徳島県 | 松茂町立松茂小学校 | 香川県 | 坂出市立瀬居小学校 |
| 高知県 | 安芸市立清水ヶ丘中学校 | 佐賀県 | 唐津市立簗木小学校 |
| 長崎県 | 諫早市立小野中学校 | 大分県 | 中津市立今津中学校 |
| 沖縄県 | 那覇市立石田中学校 | | |

■ 優秀校・優良校の表彰状等伝達式の開催

第21回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校で伝達式が行われました。その様子を一部ご紹介します。ここにご紹介した以外の受賞校については、食環協ホームページでご覧いただけます。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

愛知県 碧南市立東中学校

1987年から続くアルミ缶や新聞紙などの資源回収活動。現在は、環境委員会が中心となり年2回実施し、住民が学校に持ち寄る協力体制も整っている。また、ボランティアが盛んな地域の特性を生かして、部活動ごとに話し合いながら通学路や公園、神社など分担区域を決めて清掃活動を行っている。2019年からは、同校の近くにある天然湖沼「油ヶ淵」の清掃を年2回全校生徒で実施。地域に目を向けるようになった生徒は、住民と花苗を植えながら、活動の幅を広げている。地域からも高評価で、生徒一人ひとりに豊かな心が育まれている。

「今回の受賞は、何より生徒である皆さんが持つ環境保全の意識や地域への感謝の気持ちを、自らの力で具現化しているところにあると思います。これからも、皆さんが得た学びや感じた事を行動へとつなげ、より多くの地域の方々とともに活動が続くことを願っています」

【伝達式の出席者】 ●愛知県 碧南市立東中学校の皆さん
●愛知地連 和泉 昌典氏(麒麟ビバレッジ株式会社)
●愛知地連 栗田 香苗氏(ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)
●愛知地連 尾関 和成氏(サントリー酒類株式会社)



宮崎県 延岡市立北川中学校

恵まれた地域の環境資源を生かし、さまざまな美化活動に取り組む。ユネスコエコパークに認定された自然を守ろうと開始したのが「家田湿原」の清掃ボランティア。地域団体「家田湿原を守る会」の協力を得て、湿原の外来種、オオフサモの駆除を行いながら、自然保護意識を高めている。また、毎朝行う公道清掃は、自分たちの活動を伝統として残そうと積極的に取り組んでいる。さらに、町内にある北川駅やスーパー、小川の河原など、生徒が清掃に必要な個所を決めて小学生と合同で取り組む地域清掃は、住民から喜ばれ、感謝されている。

「生徒たちがこれまで取り組んできた活動が認められたことに感謝いたします。これからもよき伝統として継続して、さらに充実した活動にしていきたいと思います」

【伝達式の出席者】 ●宮崎県 延岡市立北川中学校の皆さん
●宮崎地連 藤久保 敦士氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)



【優良校】受賞校21校のうち4校を抜粋紹介

静岡県 掛川市立北中学校

2020年6月、ごみ処理機故障により「ごみ処理非常事態宣言」が発令された掛川市。その宣言から3日後、地域貢献のチャンスと捉えた同校生徒会役員が中心となって、「北中ごみ削減プロジェクト」を発足させた。啓発活動を広げるために、標語ポスターを制作し、市内に掲示する傍ら、市長にポスター配布協力を依頼。生徒が市を巻き込み、ごみ削減に寄与した。



「今回の活動に留まらず、継続したエコ活動を生徒会中心に推進されると聞き大変心強く感じます。県も応援して参ります。将来を担う皆さんの活動の広がりを期待します」

【伝達式の出席者】 ●静岡県 掛川市立北中学校の皆さん
●静岡県 ぐらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課 白坂 優樹様
●静岡地連 神田 吉幸氏(カゴメ株式会社)

徳島県 松茂町立松茂小学校

節電、ごみ分別、リサイクルを率先して行う「松っこプロジェクト」に取り組んでいる。ハマニガナやハマヒルガオなどの海浜植物が自生する月見ヶ丘海岸の近くに位置する同校は、豊かな自然環境を守るために月1回「ゴミゼロの日」を設け、美化活動を実践。節電や節水にも努めながら地域への啓発活動を展開した結果、住民の協力や支援も年々増加している。



「生徒たちは掃除を楽しんで行っており、今回このような励みになる賞を受賞したことで、ますます掃除にも気合いが入っています。環境への取り組みは長年続けてきており、今後SDGsへの推進活動にも取り組んでいきます」

【伝達式の出席者】 ●徳島県 松茂町立松茂小学校の皆さん
●徳島県 危機管理環境部環境首都課 主事 槌谷 幸司 様
●徳島地連 安藝 晋治氏(大塚製薬株式会社)
●徳島地連 前泊 匡彦氏(アサヒビール株式会社)

山口県 下松市立豊井小学校

月1回の資源回収「とよいクリーンプロジェクト」に2008年から取り組んでいる。主に6年生が学校だよりやポスターなどを通じ、全校児童や保護者、地域へ広く告知。当日はアルミ缶やペットボトル、古新聞などを回収し、収益金は高齢者へ渡す干支の土鈴の購入に充てる。恒例行事なので心待ちにする高齢者も多く、リサイクル活動が地域貢献に一役買っている。



「地域のご協力をいただきながら続けてきた活動が評価され、感謝しています。環境・資源・福祉さまざまな面から価値あるこの活動を、今後も継続していきたいです」

【伝達式の出席者】 ●山口県 下松市立豊井小学校の皆さん
●山口県 環境生活部環境政策課環境企画班 主任 水野 貴行様
●山口地連 古川 保教氏(大塚製薬株式会社)

長崎県 諫早市立小野中学校

ネパールの中学校建設に貢献したいという思いから、アルミ缶回収を1994年から始めた。生徒会が主体となり月4回実施、住民にも協力依頼を呼びかけ、地域の施設に回収箱を設置。登校中の生徒にアルミ缶を手渡す住民の姿も見られる。収益金は、全額ユニセフに寄付。リサイクル活動が人の役に立つことを実感、地域の環境保全とボランティア意識を育んでいる。



「学校の伝統として引き継がれてきた活動で賞をいただくことができたのは、学校全体で積極的に協力し、ボランティア意識を高めてきたからだと思います。これからも、アルミ缶回収の活動をもとに、学校内だけでなく、地域の皆さんとさまざまな活動に取り組んでいきたいと思います」

【伝達式の出席者】 ●長崎県 諫早市立小野中学校の皆さん
●長崎県 県民生活環境部資源循環推進課 津川 京子様
●長崎地連 白井 章広氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)